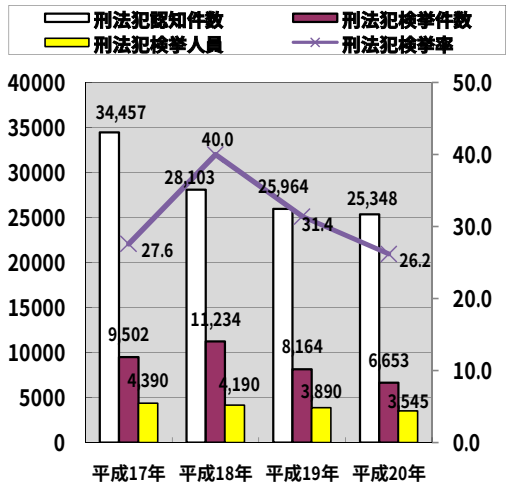
【所属】　捜査第一課

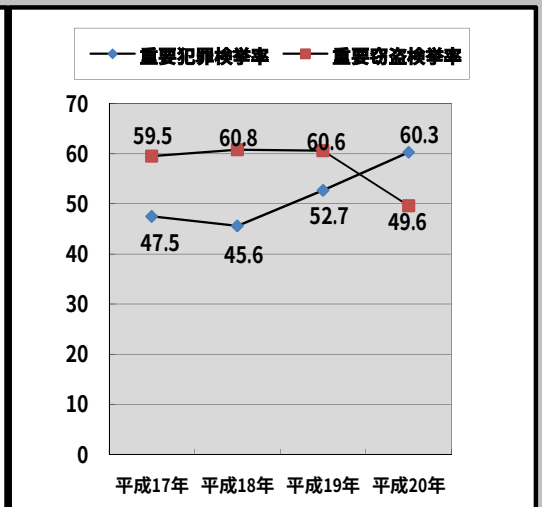
業務名	犯罪捜査活動の推進

○業務に関係する統計

項　目	統　計　の　推　移				
刑法犯認知件数	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	単位
	34,457	28,103	25,964	25,348	件
刑法犯検挙件数	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	単位
	9,502	11,234	8,164	6,653	件
刑法犯検挙人員	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	単位
	4,390	4,190	3,890	3,545	人
刑法犯検挙率	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	単位
	27.6	40.0	31.4	26.2	%
重要犯罪検挙率	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	単位
	47.5	45.6	52.7	60.3	%
重要窃盗犯検挙率	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	単位
	59.5	60.8	60.6	49.6	%

※１「重要犯罪」とは、殺人・強盗・放火・強姦・略取誘拐・強制わいせつをいう。
※２「重要窃盗犯」とは、侵入盗・自動車盗・ひったくり・すりをいう。





○業務の主なコスト

№	事　業　名	平成20年度事業費（千円）	平成21年度事業費（千円）
1	刑事警察費	59,142	57,002
2	刑事警察活動推進費	2,422	6,906
3	鑑識警察費	21,662	19,952
4	鑑識警察活動推進費	686	589
5	科学捜査活動推進費	58,720	58,668
6	写真中央処理器整備費	4,547	4,539
7	科学捜査器材等整備費	30,925	30,367
8	捜査支援システムの整備事業費	110,812	134,497
9	人質立てこもり事件対応機材整備事業費	6,035	—
合　計		294,951	312,520

○平成20年の取組み

●重要犯罪等の徹底検挙を重要課題として取り組んできた結果、重要犯罪の検挙率は60.3%であり前年を7.6ポイント上回るなど、その成果が認められたが、重要窃盗犯の検挙率は49.6%と前年を下回った。

●迅速な初動捜査、現場鑑識活動の徹底等により、熊野市内における強盗殺人事件、尾鷲市内における強盗殺人・死体遺棄事件、津市等における連続強盗強姦致傷等事件、紀北町海山区における身の代金目的誘拐事件、鈴鹿市内における未成年者誘拐事件などの凶悪事件を検挙した。

●重要窃盗犯の検挙向上に向け、組織窃盗犯罪対策及び窃盗常習者対策を重点として捜査した結果、暴力団周辺者らによる多額自動車盗事件や南勢方面における窃盗常習者らによる空き巣事件、広域にわたる出店荒し・学校荒し事件等を検挙した。

○課題と平成21年の取組み

●刑法犯認知件数は、６年連続して減少したが、県民が特に不安を感じる重要犯罪、重要窃盗犯、振り込め詐欺等は依然として高い水準で推移していることから、迅速的確な初動捜査、現場鑑識活動の徹底、各種捜査支援システム等の整備充実・有効活用、業務の合理化、効率化を図り、現場警察力の一層の強化に努める。

●強盗、放火、強制わいせつなどの重要犯罪は、捜査力を重点的にシフトして徹底検挙に努める。

●重要窃盗犯は、依然として組織窃盗グループや窃盗常習者の犯行と認められる侵入窃盗事件が多発していることから、窃盗常習者に対する基礎捜査を実施するとともに、他府県警察との共（合）同捜査を積極的に推進するなどにより検挙向上に努める。